

公表

## 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	子どもゆうゆう広場みらくるちっぴ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		2025年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2024年 1月 6日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが意欲・主体性を発揮して活動ができる	子ども自身が選び、発信することを重視し、自由に遊ぶ（活動する）ことができるよう支援する。 子どもの立場に立って、一緒に考えるようにする。	大人が考えたプログラムを提供する際も、一方的な提案でなく、子どもと一緒に考え、決める機会をさらに増やしていく。
2	子どもがワクワクし、意欲を感じられる環境	木造の温かみのある空間に加え、意図的に死角を作るなど、子ども自身が安心し、チャレンジしやすい環境を作っている。また、生き物を飼い、植物・野菜を育てるなど、自然と子どもが興味を持つものを増やせるよう工夫している。	生き物、植物の世話を子どもたちと一緒に取り組めるようにしていく。
3	子どもたちの“今”に合わせたプログラムの展開	「ライフヒストリーの会」「外国人職員による文化紹介」「子ども哲学」「各種勉強会（進路、性、薬物、スマホ、ストレスマネジメントなど）」「個人将来計画」「高校見学」など、多様な人との出会いを通して、子どもたちが“今”必要な課題にアプローチするようになっている。	子ども自身の“困り感”を丁寧に聴きとり、その時その時に必要なプログラムを実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流	医ケア児、強度行動障害をもつ子どもが共に事業所で過ごし、イレギュラーな活動を受け入れる余裕がない。また、平日は学校からの下校時刻に合わせて送迎をおこない、利用時間も2～3時間程度なので、子どもがほとんどできる時間を持てるよう取り組んでいるため。	歩いて公園に行く機会が多いが、その際に地域の方とお話ししたり、利用児以外の子どもと一緒に遊ぶ機会がある。積極的にさまざまな子どもと活動できるよう工夫する。
2	帰りの送迎をしていないため、保護者に負担をかけている。	子どもを迎えに来てもらった際に、できるだけ保護者と話をする機会を持ちたいと考えているため、帰りの送迎をしていない。	保護者の方々にご理解いただき、引き続き丁寧にコミュニケーションを積み重ねていきたいと考えている。
3	PT,OT,ST等の専門職を配置していない	訓練的な側面よりも、子どもの主体性を重視し、子どもたちには“生きる力”をつけていってほしいと考えている。	子どもの主体性を重視はしているが、子どもの特性を理解し、子どもがより意欲的に活動していくための専門的な視点は必要なので、研修、リハビリの見学などを通して、各職員の専門性を高めていきたいと考えている。